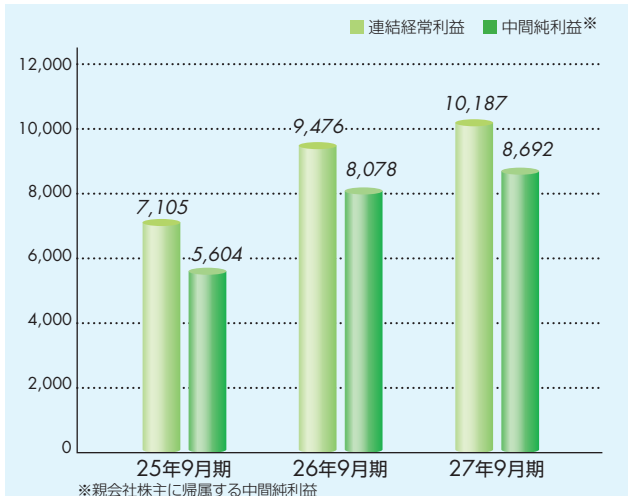
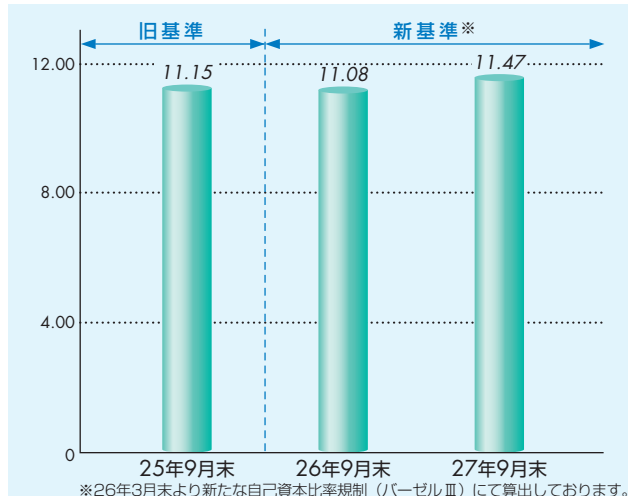


連結ベース

■ 連結経常利益・中間純利益※ (単位：百万円)

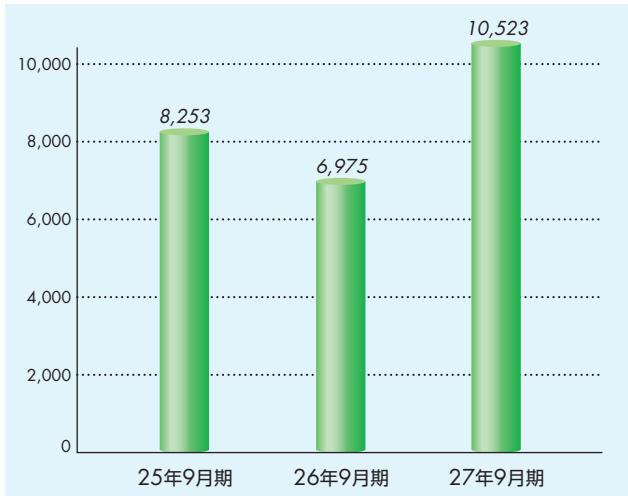


■ 連結自己資本比率(国内基準) (単位：%)

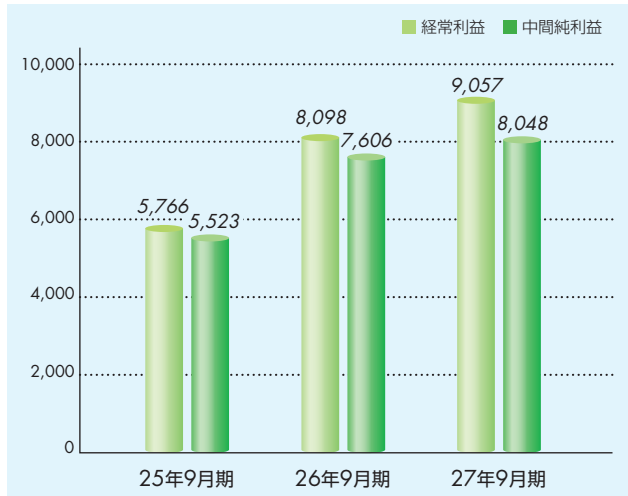


単体ベース

■ コア業務純益 (単位：百万円)



■ 経常利益・中間純利益 (単位：百万円)



業績の概要（連結）

池田泉州銀行グループの27年9月期の連結業績につきましては、連結経常収益は、有価証券利息配当金の増収を主因として資金運用収益が増加し、株式等売却益の増加により、その他経常収益も増加したことから、26年9月期比51億40百万円増加し、550億80百万円となりました。

一方、連結経常費用は、預金等利回りの低下を主因として資金調達費用が減少し、経費などの削減により営業経費も減少しましたが、国債等債券売却損の増加により、その他業務費用が増加したことから、26年9月期比44億29百万円増加して、448億92百万円となりました。

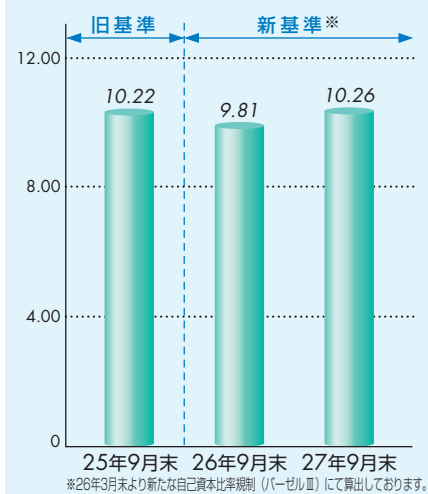
以上の結果、連結経常利益は26年9月期比7億11百万円増加して101億87百万円となり、特別

損益並びに法人税等合計を計上後の親会社株主に帰属する中間純利益は、26年9月期比6億14百万円増加して、86億92百万円となりました。

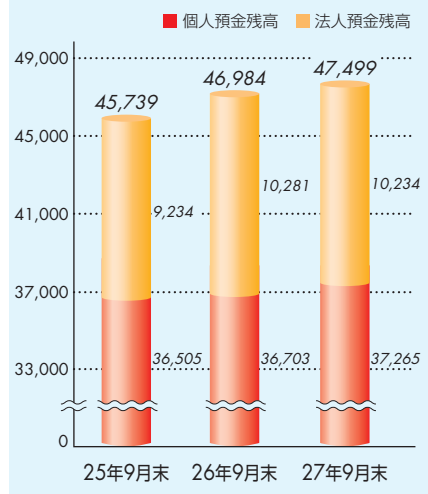
また、池田泉州銀行グループの連結自己資本比率は、11.47%となり、国内基準行に求められている基準の4%を十分に上回っております。

単体ベース

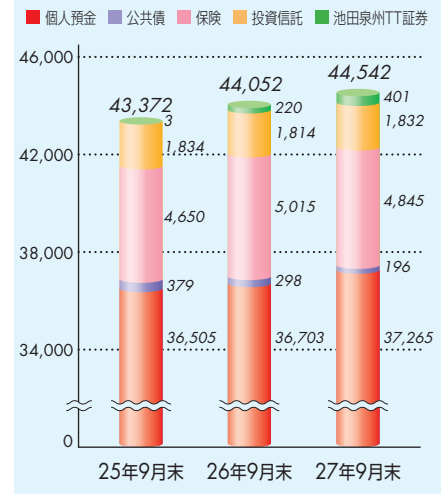
■ 単体自己資本比率(国内基準) (単位: %)



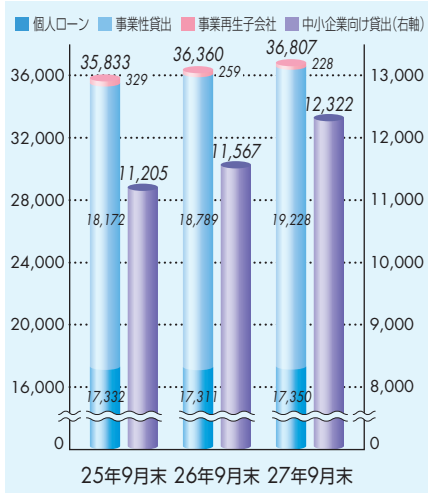
■ 預金残高 (単位: 億円)



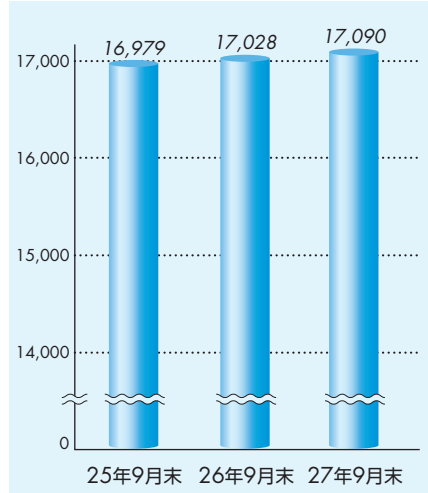
■ 個人総預かり資産残高 (単位: 億円)



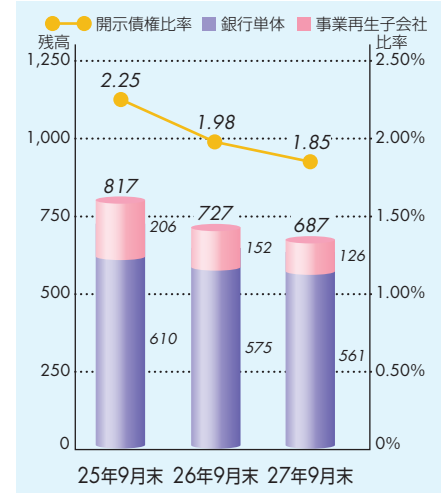
■ 貸出金残高 (単位: 億円)



■ 住宅ローン残高 (単位: 億円)



■ 金融再生法開示債権残高・比率 (単位: 億円)



業績の概要 (単体)

池田泉州銀行の27年9月期の単体業績につきましては、経常収益は、資金運用収益及び株式等売却益の増加などにより、491億17百万円となりました。経常費用は、資金調達費用、営業経費や与信関連費用などの減少がありましたが、国債等債券売却損などの増加により、400億59百万円となりました。

以上の結果、コア業務純益は、26年9月期比35億48百万円増加して、105億23百万円となり、経常利益は、26年9月期比9億59百万円増加して、90億57百万円となりました。

また、特別損益並びに法人税等合計を計上後の中間純利益は、26年9月期比4億42百万円増加して、80億48百万円となりました。

預金残高については、27年9月末残高は26年9

月末比515億円増加し、4兆7,499億円となりました。池田泉州TT証券を含めた個人総預かり資産残高は、26年9月末比490億円増加し、4兆4,542億円となりました。

また、貸出金残高についても、27年9月末残高は26年9月末比478億円増加し、3兆6,579億円となりました。

なお、27年9月末の金融再生法開示債権残高は、事業再生子会社2社分を含め、26年9月末比40億円減少して687億円となりました。この結果、27年9月末の開示債権比率は、26年9月末比0.13%低下して、1.85%となりました。